

平成30年度

大学院医学系研究科

(修士課程)

医科学専攻

学生募集要項

一般入試(第3次募集)

社会人入試(第3次募集)

信州大学

信州大学大学院入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）

信州大学大学院は、以下のような能力や意欲を備えた人たちを積極的に受け入れます。

- ・幅広い教養と専攻する分野の専門知識を持ち、さらに高度な専門的知識・専門応用能力を習得したい人
- ・知的好奇心が旺盛で、専門的課題や地域社会の抱える課題に主体的に取り組む人
- ・深い知性、論理的な思考力、豊かな人間性を備え、様々な分野でリーダーシップを発揮し、活躍したい人
- ・社会・環境・国際問題に関心を持ち、創造力を活かし、グローバルに活躍したい人
- ・職業経験から獲得した知識・技能を高度化、深化させたい人

信州大学大学院医学系研究科修士課程（医科学専攻） 入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）

本大学院医学系研究科修士課程（医科学専攻）は、医科学に関する幅広い知識を体系的、集中的に教育することにより、ヒューマンサイエンスに裏付けられた高度に専門化した知識と技術を結びつけた医科学分野の研究・教育者並びに高度専門技術者を養成することを目的とします。

本専攻では、上記の目的を達成するために、

- 1 21世紀の医学を支える研究者
- 2 高度の専門性を有する医療職業人
- 3 医療・福祉・介護・看護分野の行政官
- 4 健康教育を担う教育者

を目指し、それにふさわしい情熱と基礎学力を持つ人を求めています。

上記に掲げた素養を持つ学生を選抜するために、次のような入試を行います。

- ・「外国語（英語）」で最新の医科学英語論文を読み解く力を評価します。
- ・「小論文」及び「面接」で総合的に医科学研究に対する興味と情熱を評価します。

1. 専攻及び募集人員

専攻	募集人員
医科学	若干人 (社会人入試を含む。※)

※ 社会人入試は、現に、企業等に勤務している技術者、教育関係者及び研究者等の社会人に対し、大学院の授業、研究指導等を受け最新の医学知識・技術を学び取り、高度な医学研究能力、医療技術能力を身につけることを目的として導入しました。詳細については、志望教室の担当教授（担当教員）にお尋ねください。

- ・各教室の研究内容は信州大学大学院医学系研究科修士課程医科学専攻研究案内（8ページから11ページ）を確認ください。
- ・耳鼻咽喉科学教室の人工内耳コース、遺伝医学・予防医学教室の遺伝カウンセリングコース、スポーツ医科学教室の健康推進コーディネータ養成コース（社会人入試）、についてはそれぞれの教室の担当教授（担当教員）に詳細をお尋ねください。

2. 出願資格

次のいずれかに該当する方が出願できます。なお、社会人入試志願者は、本研究科入学時に企業等に就業している方とします。

- (1) 大学（修業年限4年以上）を卒業した方又は平成30年3月までに卒業見込みの方
- (2) 学校教育法第104条第4項の規定により学士の学位を授与された方又は平成30年3月までに授与される見込みの方
- (3) 外国において、学校教育における16年の課程を修了した方又は平成30年3月までに修了見込みの方
- (4) 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における16年の課程を修了した方又は平成30年3月までに修了見込みの方
- (5) 我が国において、外国の大学の課程（その修了者が当該外国の学校教育における16年の課程を修了したとされるものに限る。）を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した方又は平成30年3月までに修了見込みの方
- (6) 専修学校の専門課程（修業年限が4年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。）で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以後に修了した方又は平成30年3月までに修了見込みの方
- (7) 文部科学大臣の指定した者（昭和28年文部省告示第5号）
- (8) 学校教育法第102条第2項の規定により大学院に入学した方であって、本研究科において、大学院における教育を受けるにふさわしい学力があると認めたもの
- (9) 本研究科において、個別の入学資格審査により、大学を卒業した者と同等以上の学力が

あると認めた方で、平成 30 年 3 月 31 日までに 22 歳に達するもの

- (10) 大学に 3 年以上在学した方又は平成 30 年 3 月までに大学に 3 年以上在学する見込みの方であって、本研究科の定める単位を優秀な成績で修得したと認めたもの
- (11) 外国において学校教育における 15 年の課程を修了した方又は平成 30 年 3 月までに修了する見込みの方であって、本研究科の定める単位を優秀な成績で修得したと認めたもの
- (12) 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における 15 年の課程を修了した方又は平成 30 年 3 月までに修了する見込みの方であって、本研究科の定める単位を優秀な成績で修得したと認めたもの
- (13) 我が国において、外国の大学の課程（その修了者が当該外国の学校教育における 15 年の課程を修了したとされるものに限る。）を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した方又は平成 30 年 3 月までに修了する見込みの方であって、本研究科の定める単位を優秀な成績で修得したと認めたもの

3. 出願資格の審査

『2. 出願資格（8）～（13）』に該当する方は個別に資格審査を行いますので、受付期間内に、それぞれ該当する欄の申請書類を持参又は郵送により提出してください。

(1) 出願資格認定申請書類受付

受付期間

平成 30 年 1 月 22 日（月）～ 1 月 26 日（金）
（郵送の場合は簡易書留郵便とし、受付期間内に必着）

受付時間

9 時～ 17 時

提出先

信州大学大学院医学系研究科入試事務室
〒390-8621 松本市旭 3 丁目 1 番 1 号

(2) 申請書類

①出願資格（9）に該当する方

出願資格認定申請書	本研究科所定の用紙（様式 9）
最終学歴に関する証明書	卒業（修了）証明書、成績証明書 （短期大学の専攻科又は高等専門学校の専攻科を卒業（修了）した方は、短期大学又は高等専門学校の卒業（修了）証明書、成績証明書を併せて提出してください。）
最終学歴の学校に関する資料	入学資格、卒業（修了）要件、修業年限が記載されている資料
その他学修に関する資料	履修要覧、科目等履修生等の成績証明書等関係書類

②出願資格（8）、（10）～（13）に該当する方

出願資格認定申請書	本研究科所定の用紙（様式 9）
在学証明書又は在学期間証明書	出身大学（学部・研究科）長が作成したもの
学業成績証明書	出身大学（学部・研究科）長が作成し、厳封したもの
推薦書	学科主任、指導教授等が作成したもの（様式任意）
その他学修に関する資料	履修要覧等関係書類

(3) 資格審査

出願資格審査は、提出された申請書類により在学年数、取得単位等を基に行います。

(4) 結果通知

平成30年 2月 2日 (金)

同日中に本人あてに審査結果通知書を発送します。出願資格を認定された方は、出願手続をしてください。

4. 出願手続

(1) 出願手続期間

平成30年 2月 5日 (月) ~ 2月 9日 (金)

(郵送の場合は簡易書留郵便とし、出願期間内に必着)

受付時間 9時~17時

(2) 出願書類等提出先

信州大学大学院医学系研究科入試事務室

〒390-8621 松本市旭3丁目1番1号

(3) 出願書類等 (※は本研究科所定の用紙)

※入学志願票 (様式1)	この募集要項に添付する用紙に記入してください。
※履歴書 (様式2)	高等学校卒業から現在に至る経歴を年次に従い、もれなく記入してください。
※受験票・写真票 (様式3)	写真 (出願日前3か月以内に撮影した、縦4cm×横3cm、上半身、無帽、正面向き、背景なしのもの) をそれぞれに貼り付けてください。
卒業 (見込) 証明書 【注1】	出身大学 (学部) 長が作成したものとします。(中途退学者は退学証明書又は在学期間証明書を提出してください。)
成績証明書	出身大学 (学部) 長が作成し厳封したものとします。 大学院研究科修士 (博士前期) 課程修了者は、学部在籍時の成績証明書を提出してください。
※志望理由書 (様式4)	所定の様式に準じパソコン等で作成したのも可とします。
※受験承諾書 (様式5) 【注2】	第1志望教室の担当教授 (担当教員) が作成したものとします。
※受験及び修学承諾書 (様式6)	勤務先の所属長が作成したものとします。(社会人入試志願者のみ)

<p>※入学検定料納付 確認書（A票）</p>	<p>① 入学検定料30,000円をこの募集要項に添付する振込依頼書（C票）を使用して、 （第3次募集） 平成30年 1月29日（月）から平成30年 2月 9日（金）までの間に金融機関から電信扱いで振り込んでください。振込みには、別途振込手数料が必要です。なお、郵便局（ゆうちょ銀行）からの振込みはできません。また、ATM（現金自動預支払機）、携帯電話及びパソコンからの振込みは行わないでください。</p> <p>② 振込み後、納付確認書（A票）及び領収書（B票）を受け取り、A票、B票の所定欄に金融機関の収納印があることを確認し、納付確認書（A票）を提出してください。 また、「取扱金融機関収納印」欄には、出願期間最終日までの収納印があるものに限り有効となりますので、特に出願期間最終日に振り込む場合には、金融機関の窓口での受付時間を確認のうえ、行ってください。</p> <p>③ 出願期間最終日に持参により提出する方で、金融機関の窓口終了時まで振込みができなかった方についてのみ、現金による納付を受け付けます。</p>
<p>※受験票送付用封筒</p>	<p>この募集要項に添付する封筒に郵便番号、住所及び氏名を明記して82円分の切手を貼ってください。（ホームページから学生募集要項をダウンロードのうえ出願する方は、自身で長形3号の封筒を用意してください。）</p>
<p>※宛名票（様式7）</p>	<p>合格通知書等の送付先を記入してください。</p>
<p>※外国人留学生申請書（様式8）</p>	<p>外国人志願者のみ提出してください。</p>
<p>「住民票の写し」又は「パスポート」のコピー</p>	<p>外国人志願者のみ提出してください。 現に日本国に居住し、かつ、「在留カード」又は「外国人登録証明書」をお持ちの方は、「住民票の写し」（居住している市町村長が発行するもの）1通を提出してください。 それ以外の方は、「パスポート」のコピー（氏名、国籍、生年月日、性別が記載された部分及び日本国証の部分）を提出してください。</p>

【注1】 出願資格（2）による出願者は、大学評価・学位授与機構が発行する学士の学位授与（見込）証明書を提出してください。

【注2】 事前に志望する教室の担当教授（担当教員）と面談して出願してください。

（4）出願方法

「（3）出願書類等」を一括して郵送又は持参してください。なお、郵送の場合は、封筒の表に「大学院修士課程入学願書在中」と朱書きし、必ず簡易書留としてください（出願期間内必着）。出願書類受理後、受験票を本人宛に送付します（出願期間終了日以降）。

5. 選抜方法等

入学者の選抜は、小論文、外国語試験、面接の結果及び出願書類等を総合して行います。なお、外国語試験については、辞書（医学用語辞典を含む。）の持ち込みを可とします。ただし、電子辞書及び辞書機能を持つ電子機器類は不可とします。留学生等で小論文の解答を英語で記述を希望する場合は、出願時に申し出てください。

試験日時・場所

期日	時間	科目等	試験場
平成30年3月1日（木）	9:00～10:00	小論文	信州大学医学部 ※詳細は受験票送付時に通知します。
	10:20～11:50	外国語（英語）	
	13:00～	面接	

6. 合格発表

日時

平成30年 3月15日（木）午前10時

信州大学医学部大学院生用掲示板に掲示するとともに、同日中に合格者に対し合格通知書を発送し、公式発表とします。また、信州大学大学院医学系研究科ホームページに合格者の受験番号を発表しますが、必ず合格通知書又は掲示板で確認願います。なお、電話やメール等による合否のお問い合わせには応じられません。

(<http://www.shinshu-u.ac.jp/graduate/medicine/>)

7. 入学手続

合格者は、次により入学手続を行ってください。なお、詳細については合格通知書に同封してお知らせいたします。

(1) 入学手続期間

平成30年 3月16日（金）～ 3月23日（金）

受付時間 9時～17時（ただし、土曜日、日曜日及び祝日は受け付けません。）

(2) 入学手続場所

信州大学大学院医学系研究科入試事務室

(3) 入学料の納入等

①銀行振込により所定の入学料を納入してください。

②既納の入学料は、どのような理由があってもお返しできません。

③入学料・授業料の納入が著しく困難な方には、免除制度、徴収猶予制度及び月割分納制度（授業料のみ）があります。

(4) 手続に当たっての注意事項

入学手続締切期日までに入学手続を完了しない場合は、本学への入学を辞退したものと取り扱います。

8. 募集要項請求方法

郵送を希望する場合は、封筒の表に「大学院学生募集要項（修士課程）請求」と朱書きし、返信用封筒（角形2号（横24cm×縦33.2cm）に205円分の切手を貼り、郵便番号、住所及

び氏名を明記)と連絡先(電話番号及びメールアドレス)を記載したものを入れて、信州大学大学院医学系研究科入試事務室(〒390-8621 松本市旭3丁目1番1号)まで請求してください。

9. 障害等のある方の事前相談

本学に入学を志願する方で、障害等のために受験上及び修学上の配慮を必要とする方は、出願の前に、信州大学大学院医学系研究科入試事務室へ事前相談をしてください。

なお、重度の障害がある方は、できる限り早い時期に相談をしてください。詳細については、本学のホームページ(障害等のある方の事前相談について)をご覧ください。(http://www.shinshu-u.ac.jp/ad_portal/consultation.html)

10. その他

(1) 受理した出願書類及び検定料は、どのような理由があってもお返しできません。また、提出後の記入事項の変更は認めません。なお、検定料を誤って二重に振り込んだ場合又は振り込んだが本学に出願しなかった(出願書類等を提出しなかった又は出願が受理されなかった)場合は、本人の請求により納入された検定料(二重に振り込んだ場合は重複して納入された分)の返還が可能です。返還手続については、本学のホームページ(入学検定料返還手続)をご覧ください。(http://www.shinshu-u.ac.jp/ad_portal/return.html)

(2) 出願手続後、現住所又は緊急連絡先に変更が生じたときは、速やかに信州大学大学院医学系研究科入試事務室に連絡してください。

信州大学大学院医学系研究科修士課程（医科学専攻）入学案内

1. 目的

本大学院医学系研究科修士課程（医科学専攻）は、医科学に関する幅広い知識を体系的、集中的に教育することにより、ヒューマンサイエンスに裏付けられた高度に専門化した知識と技術を結びつけた医科学分野の研究・教育者並びに高度専門技術者を養成することを目的とします。

2. 標準修業年限 2年

3. 履修方法

本研究科において2年以上在学し、研究指導を受け、必修科目26単位、選択必修科目4単位以上、合計30単位以上を修得します。

なお、社会人入試入学者においては、原則として1年次に必修科目及び選択必修科目を履修し、2年次には、就業している職場に勤務しながら指導教員から研究指導を受けるものとします。

4. 学位授与

本研究科に2年以上在学し、所定の単位を修得し、かつ必要な研究指導を受けたうえ、修士論文の審査及び最終試験に合格した方には、修士（医科学）の学位が授与されます。

5. 入学料及び授業料

入学料 282,000円

授業料 （前期）267,900円 （後期）267,900円

金額は平成29年4月現在のもので、入学時及び在学中に入学料・授業料が改定された場合には、改定時から新入学料・新授業料が適用されます。納付金の額及び納付の方法については、合格通知書に同封しお知らせします。

6. 奨学金制度

日本学生支援機構から大学院学生に対する奨学金制度があります。学業成績及び研究能力、家庭の経済的事情等を考慮し、選考により奨学金が貸与されます。

信州大学大学院医学系研究科修士課程医科学専攻研究案内

※ 各メールアドレスの後の「shinshu-u. ac. jp」を省略してあります。

教室	担当教授 (担当教員) メールアドレス	内 容
組織発生学	佐々木 克典 katsmd@	マウス, サル, ヒト ES 細胞及びマウス, ヒト iPS 細胞の分化機構の解明及び幹由来分化細胞を用いた副次臓器開発の研究を行っている。
人体構造学	(福島 菜奈恵) nanae@	神経系(中枢神経・末梢神経)を中心として, 機能解剖学的研究を行っている。
病理組織学	菅野 祐幸 hirokan@	ウイルスをはじめとする感染により引き起こされる免疫の機能異常, 腎炎, 血管炎の研究を行っている。
感染防御学	中山 淳(兼務) jnaka@	トキソプラズマなどの細胞内寄生原虫や腸管寄生虫に対する防御免疫機構の研究, 自己炎症性疾患における炎症カスケードの解析を行っている。
生理学	沢村 達也 sawamura@	「ヒトは血管とともに老いる」といわれる。老化につながる血管機能異常のメカニズムを解明し, それに基づく新しい診断・治療法の開発を行っている。
分子細胞生理学	田淵 克彦 ktabuchi@	脳の生理機能について分子細胞生物学的手法を用いて研究し, 精神活動が発現するメカニズムの解明をめざしている。また, これらの破綻によって引き起こされる精神・神経疾患の病態生理について研究を行っている。
分子薬理学	山田 充彦 myamada@	心臓・骨格筋・平滑筋をはじめとする種々の臓器の分子薬理学を, 特にイオンチャンネルをキーワードに研究し, 各種疾患の病因解明や診断・治療法の開発をめざす研究を行っている。
分子薬理学 (薬剤部)	大森 栄 somori@	ヒト胎児肝細胞や中枢神経細胞を用いて, 薬物代謝酵素の機能や医薬品を含む異物に対する防御機能の解明に関する研究を行っている。
免疫・微生物学	竹下 敏一 takesit@	サイトカインによる T 細胞制御機構を中心とした免疫学, ならびにウイルス発ガン機構の研究を行っている。
免疫制御学	瀧 伸介 takishin@	転写因子による免疫系の制御機構, 自己免疫やアレルギー疾患の研究を行っている。
呼吸器内科学 感染症学 アレルギー学	花岡 正幸 masayuki@	COPD・呼吸不全・睡眠時無呼吸症候群・急性呼吸窮迫症候群の呼吸管理, 癌の化学療法, 高地医学などに関する研究を行っている。
消化器内科学 腎臓内科学 血液内科学	田中 榮司 etanaka@	消化器は, ウイルス肝炎, 脂肪性肝疾患, 自己免疫性肝疾患を中心に肝疾患の基礎的および臨床的研究を行っている。腎臓は糸球体腎炎, 血液浄化に関する研究を行っている。
脳神経内科学 リウマチ・ 膠原病内科学	(関島 良樹) seki jima@	アミロイドーシスなどの蛋白質のミスフォールドに起因する神経変性疾患および膠原病関連神経疾患の分子病態解析, 早期診断法の開発, 病態に即した治療法の開発に関する研究を行っている。
糖尿病・ 内分泌代謝内科学	駒津 光久 mitsuk@	糖尿病を代表とする生活習慣病の病態と治療に関する臨床研究と各種ホルモンの分泌や作用機序に関する基礎的研究を行っている。
循環器内科学	桑原 宏一郎 kkuwah@	心不全など心血管病の病態解明, 治療法創出を目指して動物・細胞モデルを用いて行う基礎的研究と循環器疾患の臨床研究を行っている。

教室	担当教授 (担当教員) メールアドレス	内 容
小児医学	中沢 洋三 yxnakaza@	遺伝子解析, 遺伝子導入, 細胞培養技術を用いて, 遺伝子改変 T 細胞療法や遺伝子治療法の開発を目指している。また, 神経免疫疾患, 自己炎症症候群, 原発性免疫不全症, 炎症性腸疾患などの研究も行っている。
皮膚科学	奥山 隆平 rokuyama@	悪性黒色腫を中心とする皮膚腫瘍, 乾癬やアトピー性皮膚炎といった炎症性疾患を中心に病態解析と新規治療の開発を目指した研究を進めている。
画像医学	角谷 眞澄 kadoyam@	画像診断, Interventional radiology ならびに放射線治療における放射線医学の臨床研究を行っている。
消化器外科学 移植外科学 小児外科学	宮川 眞一 shinichi@	消化器領域癌, 肝移植や膵島移植に関する研究や, 体性幹細胞をもちいた再生医療の研究を行っている。
心臓血管外科学 呼吸器外科学 乳腺内分泌外科学	岡田 健次 keokada@ 伊藤 研一 kenito@	生体侵襲, 外科腫瘍学, 遺伝子治療, 再生医療をキーワードに, 臨床応用にむけた広範な分野での学際的なトランスレーショナルリサーチをめざしている。
産科婦人科学	塩沢 丹里 tanri@	卵巣がん, 子宮がんなどの婦人科悪性腫瘍の発生や浸潤・転移の機序を病理学的, 分子生物学的に研究を行っている。
泌尿器科学	石塚 修 ishizuk@	下部尿路疾患の診断, 治療, 予防について分子レベルから下部尿路機能の統合的制御機構を含めて包括的な研究を行っている。研究から得られた下部尿路疾患の診断・治療・予防に有益となる情報に基づいて, 個々の患者さんに即した質の高い医療を実現するための第一歩となること, 国内外に先端的な研究成果を発信することを目指している。 (http://www.shinshu-u.ac.jp/faculty/medicine/chair/urology/index.html)
運動機能学	加藤 博之 hirokato@	整形外科分野における組織再生(軟骨, 骨, 靭帯腱など)を目指し, 骨の生体材料の開発, 末梢神経障害の病態の解明を行っている。地域コホート研究により, 腱, 関節, 筋の加齢変化によるロコモティブ症候群の頻度, 発生を調査している。最先端の手法を用いて, 先天性骨系統疾患の原因遺伝子同定と機能解明を遂行している。
形成再建外科学	杠 俊介 yuzuriha@	小児先天奇形, 再建外科, 血管腫・血管奇形, 顔面計測学, 赤唇・爪組織の再生などに関する研究を行っている。
歯科口腔外科学	栗田 浩 hkurita@	口腔腫瘍に関する基礎及び臨床研究, 口腔領域における組織再生(骨, 粘膜など), 口腔機能と全身との関連等について研究を行っている。
麻酔蘇生学	川眞田 樹人 kawamata@	麻酔科学にとってもっとも重要な, 侵襲から生体を防御する全身管理学の発展に寄与するために, 痛みや麻酔のメカニズム, 麻酔薬による神経毒性のメカニズムなどの研究を行っている。
精神医学	鷺塚 伸介 swashi@	児童思春期における心の問題, 老年期におけるうつ病, 認知症などをテーマに社会精神医学的アプローチに基づく研究を行っている。
脳神経外科学	本郷 一博 khongo@	「低侵襲・機能温存手術」をキーワードに, より安全な手術を行うための術前画像診断, 手術シミュレーション, 術中神経機能モニタリング, 術中腫瘍の可視化, 手術アプローチ, 手術器具の開発, 手術ロボットの開発, などに取り組んでいる。

教室	担当教授 (担当教員) メールアドレス	内 容
眼科学	村田 敏規 murata@	主要失明原因であり、今後も糖尿病患者の激増に伴い、患者の増加が見込まれる糖尿病網膜症の病態のさらなる解明と、患者負担が軽い革新的治療法の開発を目指した基礎研究を行う。
耳鼻咽喉科学	宇佐美 真一 usami@	難聴の遺伝子診断や人工内耳による聴覚リハビリの研究を行っている。 ※人工内耳コース については信州大学医学部耳鼻咽喉科学教室ホームページを参照。 (http://www.shinshu-u.ac.jp/faculty/medicine/chair/ent/)
遺伝医学・予防医学	(古庄 知己) iden@	遺伝医学研究および 遺伝カウンセリングコース (http://www.shinshu-u.ac.jp/faculty/medicine/chair/PM/index.html) の2コースがある。
衛生学公衆衛生学	野見山 哲生 nomiyama@	環境・産業医学, 疫学, 公衆衛生 (母子保健, 精神保健他), 臨床疫学にかかわる諸問題, テーマについて, 実験的手法, 疫学的手法などを用いて研究を行っている。
医学教育学	多田 剛 tadatsu@	医学教育ならびに医学シミュレーション教育を実践し, よりよい医療人を育てるシステム開発を目指す。また, 修士学生諸君が将来所属する病院でシミュレーション教育の指導者となれるように教育方法と訓練方法を研究する。
医療情報学	(濱野 英明) hidehama@	医療情報学, 病院情報システム, 医療情報連携システム, 電子カルテにおける個人情報保護などの研究を行っている。
病態解析診断学	本田 孝行 thondat@	附属病院で検査部を担当し, 教室員の出身母体も研究領域も多岐にわたる。遺伝子検査, 感染症検査および検査の活用に関与している。
法医学	浅村 英樹 asamura@	法医遺伝子学, 法医病理学, 法中毒学, DNA タイピングと疾患原因遺伝子の解析の研究を行っている。
救急集中治療医学	今村 浩 imamura@	救急医学, 集中治療医学, 災害医学に関する研究を行っている。
包括的がん治療学	小泉 知展 tomonobu@	がん薬物治療, 放射線治療および緩和医療における基礎および臨床的研究を行っている。詳しくはホームページを参照。 (http://www.shinshu-comprehensive.jp/index.php) また医師をはじめとする各医療人が, どのようにがん患者に対して医療チームとして支援体制に寄与するかを研究的に分析している。
再生医科学	柴 祐司 yshiba@	幹細胞を用いた再生医療の研究を行っている。遺伝子工学, 分子生物学, 細胞生物学, 動物実験などの様々な技術を駆使して病気の解明と新しい治療法の開発を目指す。
神経難病学 (寄附講座)	山田 光則 nori@ 吉田 邦広 kyoshida@	脳の病気 (特に脊髄小脳変性症, パーキンソン病) の発症機序, 分子病態について神経病理学的, および遺伝学的な研究を行っている。
感染病態解析学 (寄附講座)	高本 雅哉 masaya@	腸内細菌叢による腸炎の解析, 細胞内寄生病原体による炎症機構の研究を行っている。炎症に及ぼす環境ホルモンやその受容体の影響の検討についても研究している。

教室	担当教授 (担当教員) メールアドレス	内 容
加齢生物学	樋口 京一 keiichih@	マウスやラットを用いた老化や老化疾患(アミロイドーシス, 白内障, 好酸球増多症等)の遺伝的解析を行い, 治療法や抗老化法の開発を行っている。
神経可塑性学	(棚橋 浩) tanahasi@	末梢, 中枢でのシナプス結合に関わる分子の機能解析, 疾患との関わりについて研究を行っている。
分子病理学	中山 淳 jnaka@	糖鎖遺伝子を用いて, 癌や炎症等種々の病態下における糖鎖の機能解明を目指している。
代謝制御学	青山 俊文 aoyamoto@	遺伝子改変モデルマウスを用いて, 生活習慣病(癌・糖尿病・肥満・高脂血症等)や環境ホルモン障害の発症機構解明と予防法の開発に関する研究を行っている。
循環病態学	新藤 隆行 tshindo@	トランスジェニックマウスやノックアウトマウスを, クリッパー/Cas法を応用して, 当教室で独自に作成し, (主として高血圧, 心不全, 動脈硬化に関わる血管作動性ペプチド, 転写因子, プロテアーゼなどの遺伝子操作マウス), その解析から, 再生医療をはじめとした新たな治療法開発や, 疾患発症のメカニズム解明を目指した研究を行っている。このため, ES細胞の遺伝子操作や, 胚操作技術に加え, 現在の医学研究の様々な手法を集約的に導入している。
スポーツ医科学	能勢 博 isports@	ヒト, 動物で個体レベルの研究を行い, 競技, 健康スポーツなど, 現場で役立つ運動環境生理学の修得をめざしている。 ※健康推進コーディネータ養成コースの詳細については, 信州大学大学院医学系研究科スポーツ医科学分野ホームページを参照。 (http://www.shinshu-u.ac.jp/faculty/medicine/department/doctor/grdkarei/i-sports/)

この募集要項に関する照会先
信州大学大学院医学系研究科入試事務室

〒390-8621 長野県松本市旭3丁目1番1号
TEL 0263(37)3376 (直通)
FAX 0263(37)3080

信州大学大学院医学系研究科ホームページ
<http://www.shinshu-u.ac.jp/graduate/medicine/>

※個人情報の利用について

信州大学における入学試験を通して取得した個人情報については、入学試験のほか次の目的のために利用します。

- ① 入学手続
- ② 学籍管理
- ③ 学習指導
- ④ 学生支援関係業務
- ⑤ 入学者選抜方法及び大学教育改善のための調査・研究

なお、調査・研究及び結果の発表に際しては、個人が特定できないように処理します。